

■ 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築・設備 2016年版、名古屋市の建築物環境性能評価マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE Nagoya 2016(v3.0)

標準計算

■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンサイト ■オフサイト

①参照値

②建築物の取組み

③上記+②以外のオンサイト手法

④上記+オフサイト手法

0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー
LR1のスコア= 3.0

項目	スコア
建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	2.7
効率的運用	2.0

LR2 資源・マテリアル
LR2のスコア= 2.8

項目	スコア
水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.8
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境
LR3のスコア= 2.9

項目	スコア
地球温暖化への配慮	3.4
地域環境への配慮	2.4
周辺環境への配慮	2.7

Q1 室内環境 室内仕上げ材は全てF☆☆☆☆としている。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管材や内装材を利用して、長寿命化に配慮している。	Q3 室外環境（敷地内） 屋外庭園を設け開放的な空間に配慮している。 また、室外機等機械設備をGL+10m以上に設置することで歩行空間の暑熱環境に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明により、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓や節水型便器などにより、節水に配慮している。	LR3 敷地外環境 適切な駐輪・駐車スペースの確保に配慮している。

■ **CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency** (建築環境総合性能評価システム)
 ■ **Q: Quality** (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE: Built Environment Efficiency** (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

東名古屋画像診断クリニック

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.0
LR1	エネルギー	3.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.091114223	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009111422	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045557112	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.0



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。